

「地域の皆様からのご支持No.1」を目指して…

平素は格別のお取引を賜り厚く御礼申し上げます。

また、このたびの東日本大震災で被災された皆さまに、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

さて、平成23年3月期の業績につきましてご報告いたします。

業務純益は220億円、当期純利益は63億円となりました。

預金残高は、個人預金を中心に年間902億円増加し、4兆3,570億円となりました。

預かり資産販売額も順調に伸び、平成23年3月期は、1,690億円となりました。

貸出金残高は、年間488億円増加し、3兆5,123億円となりました。

自己資本比率（池田泉州ホールディングス連結）は、10.80%となりました。

また、不良債権比率は、2.02%から1.76%に低下しました。全国地銀の中でも最低水準の比率です。

池田泉州銀行が発足して1年が経過しました。

私どもはこれまで、合併効果の発揮に努めるとともに、次の3つの独自戦略を展開してまいりました。

- (1) 地の利を活かした「アジア・チャイナ・ビジネス」の強化
- (2) 「産・学・官の連携」で培った「先進テクノ」の活用
- (3) さまざまなニーズにお応えする「プライベートバンキング業務」の推進

その一つ、「産・学・官の連携」の取組みとして、平成23年3月、堺市と「産業振興連携協力協定」を締結し、これを機に、「堺市産業振興ファンド」を創設したほか、4月には、同協定に基づく「堺市震災緊急融資」も創設しました。加えて、5月27日には、堺市との相互連携による「協定締結記念シンポジウム」を開催しました。また、2月に近畿大学と、3月に龍谷大学と、5月には和歌山大学と、相次いで「産学連携基本協定」を締結し、関西主要大学との連携ネットワークは、合計10校となりました。これからも当行は産学官連携をより深め、地元経済発展のお役に立ってまいります。

店舗につきましては、3月28日、京都支店が烏丸御池に、より広くより便利になって、移転オープンいたしました。今後、阪神間への新たな出店も計画しており、引き続き、より充実した店舗ネットワークのご提供に努めてまいります。なお、来年1月には、統合・合併の総仕上げとして、コンピュータシステムを統合いたします。それまでの間、何かとご不便をおかけいたしますが、システム統合後は、より一層のサービスの向上を実現してまいります。

また、本年は旧池田・旧泉州銀行創業から数えて60周年に当たります。私どもは、この節目の年を迎えるにあたり、その「志」として、日本一「お客さまに親切的な銀行」、日本一「新しさにチャレンジする銀行」を目指し、その結果として、「地域の皆さまからのご支持No.1」のご評価をいただけるよう、役職員一同、全力を挙げて努めてまいります。引き続き、ご愛顧とご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

平成23年7月

池田泉州ホールディングス 取締役社長兼CEO

池田泉州銀行 取締役頭取兼CEO

服部盛隆

おかげさまで、合併1周年、そして、創業60周年を迎えました。



創業60周年記念ロゴマーク



株式会社池田泉州銀行は、2011年5月に合併1周年を迎えました。旧両行の創業からでは60周年となり、このたび記念ロゴマークを制定いたしました。記念ロゴマークは、お客さまに永年のご愛顧への感謝の気持ちと、「地域のため、地域の皆様のお役に立ちたい」との思いを伝えるために作成したものです。記念ロゴマークの“60”は、二つの“輪”から構成されており、“お客さま”と“当行”との『ご縁』を表現すると共に、当行が持つ様々なネットワークを表現しています。当行は、『地域の皆様からのご支持No.1』を目指して、CSの原点である“親切で新しい”を合言葉に全役職員が一丸となって、日々の業務に取り組んでまいります。